



# 未来を見据えて 行政組織を アップグレードする

内閣官房内閣人事局参事官補佐  
(機構総括担当)

**北岸 英敏** KITAGISHI Hidetoshi

- 平成 22年 4月 総務省採用  
同 行政評価局政策評価官付
- 平成 23年 4月 内閣官房副長官補室(内政総括・財務担当)
- 平成 25年 7月 国家公務員制度改革推進本部事務局主査  
内閣官房行政改革推進本部国家公務員制度改革事務局主査
- 平成 26年 5月 内閣官房内閣人事局機構総括係長
- 平成 28年 7月 高知県黒潮町参事
- 平成 30年 7月 総務省行政管理局企画調整課課長補佐
- 令和 2年 1月 併任 内閣官房内閣総務官室
- 令和 2年 7月 農林水産省政策統括官付農産企画課課長補佐(総務班担当)
- 令和 3年 7月 同 農産局農産政策部企画課課長補佐(総務班担当)
- 令和 4年 7月 総務省行政評価局企画課課長補佐
- 令和 4年 8月 同 行政評価局総務課課長補佐  
併任 行政評価局企画課  
併任 行政評価局政策評価課  
併任 行政評価局政策評価課客観性担保評価推進室
- 令和 5年 7月 現職

## 各府省の組織管理

私はいま、内閣官房の内閣人事局で、各府省に置かれる局や課、時には省庁組織そのものの新設や改廃について審査する業務を担当しています。我が国が直面する課題に対して各府省がどのような体制で臨むのか、課題の解決に組織面からアプローチする業務です。

例えば、サイバーセキュリティ対策の強化のために内閣官房と各省はどのように連携を図っていくべきか、新たな大使館を設けることは我が国の外交力強化の観点からどのような意義があるのかといったように、審査を通じて各府省の政策内容と狙いを掘り下げ、政策効果の最大化が図られるよう政府全体の組織の在り方に最適解を見出していきます。

## 心がけていること

法律や補助制度などの仕組み作りにおいても同様かと思いますが、組織を新設・改廃することそのものが目的ではありません。あくまで手段の一つであって、新しい組織を通じて実施する政策が、いかに世の中に変化を起し、効果を国全体に波及させていくかを考えることが重要です。組織の審査にお

いても、新設・改廃する組織だけではなく既存の組織と新たな組織の関わり方やマネジメントの在り方まで含めて議論をします。また、その際、組織内部の機能論にとどまらず、政策の実行過程において誰が誰にどのように働きかけ、作用することで国民全体に裨益するのか、行政と国民の関係を意識するよう心がけています。

## 幅広いフィールドで働く

内閣官房のような政府全体を俯瞰して考える業務においては、総務省に入省して以来、これまで関わってきた様々な業務の経験が生きています。総務省での業務はもちろん、自治体(高知県黒潮町)や他省庁(農林水産省)に出向し、住民の方々や事業者の方々や直接やり取りしながら政策を企画し、実施する機会に恵まれました。こうした実体験を重ねてきたことで、各府省の政策や施策の企画から実施に至るまでの解像度が高まり、大局的な視点での議論の質をより高めることにつながっていると感じています。

総務省には、そんな幅広いフィールドで経験を積むチャンスがあり、また、その経験を生かすことができる環境があります。もし皆さんがそんな働き方に魅力を感じるのであれば、ぜひ総務省へ。皆さんとお

会いできることを楽しみにしています。



休日は仕事を離れて家族とゆっくり

## 各省庁と進めるデジタル化

総務省入省後、IT関係の部署を中心に経験してきました。現在はデジタル庁省庁業務サービスグループの総括担当として、グループ内外の調整や他省庁との連携に携わっています。省庁業務サービスグループは、行政機関共通のクラウド利用環境の提供や、政府ネットワークの一元的整備を通じ、国や地方自治体の何十万人もの職員の業務を日々支えています。

デジタル庁はデジタル化の司令塔ですが、デジタル庁だけでDXを進めることはできません。デジタル化によってどんなメリットがあるか、デジタル庁のサービスをどう活用できるかを他省庁と議論し、場合によってはその省庁の仕事のやり方まで変える業務改革を二人三脚で行うこともあります。

こうした仕事を進めるためには、デジタル技術に関する知識もさることながら、様々な行政分野に関する好奇心と政策執行の最前線である現場への想像力が求められます。デジタル庁への出向は、縦(デジタル技術)と横(様々な行政分野)両面の知識・スキルを磨くことができる機会だと実感しています。

## システムではなくサービスをつくる

以前内閣官房IT総合戦略室に出向した際、「サービス設計12箇条」という指針の策定に携わりました。利用者中心の行政サービスを提供するためのノウハウをまとめたもので、最後の第12条が「情報システムではなくサービスを作る」という指針です。

誤解されやすいですが、システムをつくることはDXの手段であり目的ではありません。システムの導入に固執せず、丁寧な対面コミュニケーションなどのアナログな手法も組み合わせ、利用者にとって使いやすく便利なサービスをつくるのが本当の目的です。

簡単に聞こえるかもしれませんが、仕事を進めていると、往々にして「システムをつくる」ことがゴールになってしまいます。これから社会に出る皆さんも、きっと同じような経験をするはずですが、そんな中で、便利なサービスをつくらせているだろうか、どう社会の役に立つだろうか、と踏みとどまって考えること、そうした役割を担うのが国家公務員の仕事だと考えています。



デジタル庁のオフィスで同僚と議論



休日は娘と公園で遊びます



# システムではなく サービスをつくる

デジタル庁省庁業務サービスグループ  
参事官補佐

**井下 紘登** INOSHITA Hiroto

- 平成 24年 4月 総務省採用  
同 行政管理局企画調整課
- 平成 26年 7月 同 情報通信国際戦略局通信規格課
- 平成 27年 8月 同 情報通信国際戦略局通信規格課地域標準系長
- 平成 28年 7月 内閣官房情報通信技術(IT)総合戦略室主査
- 令和 元年 7月 英国留学(フォーリック大学・ロンドン大学クイーンメアリー校)
- 令和 3年 9月 デジタル庁戦略・組織グループ参事官補佐
- 令和 4年 7月 現職